



麒麟

大田区立松仙小学校
令和 2年 11月18日(水)
裏研究推進だより23第号
2学期担当

第2回 話題提供授業記録

授業者

講師 齊藤 雄司 先生

今日の体育の授業について

- ・実際に作ったコースを走っている場面が少なかった。もっと走らせたい。(運動量の確保)
- ・20mの中に障害物が多い。もっと、直線を走らせたい。
- ・ロープの扱いが2年生では難しい。
- ・リレーについて、勝った白チームは、どうして勝てたのか、という他のチームへの共有が欲しかった。
- ・子供が障害物を自分から直すなど、子供同士のよい関わりがあった。子供と先生の関係もよかった。
- ・ミニホワイトボードを児童がよく活用していた。
- ・順位付けは6チームだと勝つのが1チームしかないので、全体の意欲が低下する心配がある。
- 3チーム対抗や2チーム対抗でリレーをする工夫を考えられる。負けたチームに選ばせる工夫も考えられる。
- ・バトンは、向かいタッチだったが、3年生のリレーとのつながりを考えて、チームの列を一周して、後ろからパスする方法がある。
- ・勝敗は、お互いのチームで確認できる方法がある。→ゴールの瞬間、全員で「ゴール！」と声を出す。→コーンにリングバトンをつける。

低学年の「走の運動遊び」のねらい

- 走りそのものを楽しく行いながら、良い動きにしていく。

低学年の「走の運動遊び」まとめ

- 何を身に付けさせたいかを明確にして指導計画を作成する。
- 「運動遊び」は、技能習得のためのトレーニング、反復練習であってはいけない。
- 1, 2年生の体育学習では、子供たちが「運動したい」という欲求を充足させ、「運動・体育」が楽しいと感じさせることが重要。

「知識」「技能」「表現力」

- できるは、いつでもできるという習熟した技能とし

- て身に付ける。(前回の「自動化」につながる)
- 体育特有の表現力がある。

運動の特性(運動が持っている価値や魅力)

- 機能的特性：子供たちに味わわせたい運動の楽しさ
- 構造的特性：授業者が知っておくべき特性

体育の見方・考え方とは

運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・見る・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること

体育を学んでいくために

体育の授業は

- ・明るく、元気に、運動量確保して、学習規律！

単元の指導計画の作成

児童の実態を見据えて、系統性を考えて、配当時間を考える。

1 単位時間の授業場面

- 1 マネジメント場面
⇒今日の準備、片付けはよかった！
- 2 学習指導場面(励まし、称賛、助言…)
⇒先生のフワフワ言葉よかった！
- 3 認知学習
⇒どうして白チームは2回連続で勝てたのかな
- 4 運動学習場面(運動する種類、強度、頻度)
⇒50%目指したい。
⇒「運動あって学びなし」にならないように

教師の言葉かけを聞いて子供たちの声掛けができるようになる！

深い学び

新たな課題が見つかり、それに向かって進んでいくこと。学習カードが活用できる。

私は、この話題提供授業を通して、研推の時に 先生が教えて欲しいと言った低学年の深い学びについて考えていました。今日の黄色チームのメンバーの自分のやりたいこと相手のやりたいことが違うやり取りなどを見て、2つにまとめてみました。もうちょっといい言葉あったら教えてください。

- ①自分の考えに固執せず、友達の考えに共感したり、めあてに即した考えができたたり行動したりすること。
- ②障害物の特性を理解し、それに関する運動技能の向上に関する思考や動きをしていること。

そのために、柱となるめあてやテーマがあるといいと思いました。毎日の授業でのめあての立て方、そのめあてに即した児童の実態に応じた授業内容のあり方について、改めて丁寧に考えていこうと思いました。(文責：)

キラリと光る付箋

成果

○教師の声かけとクラスの雰囲気

- 大きなトラブルなく対話できたのは、「ふわふわことば」のおかげかな。【先生】
- 先生が日ごろからふわふわ言葉を使っているから、話し合いがうまく進んでいたのかな。【先生】
- 先生が「〇〇しよう、△△しよう。」と指示するのではなく、「やってみてどうだった。やりにくいところあった？」と常に疑問形で子供に考える機会を多く設けていた。【先生】

○教材教具

- 教具(障害物やホワイトボードなど)が充実していて、コースを作りたい!という意欲が高まっていた。【黒崎先生】
- とても意欲的・主体的に取り組んでいた。や気に満ち溢れていた。【先生】

○障害物の特性

- 実際にやっているのだから、障害物の特性を言葉にできることが多い。「目が回るから～。跳び終わってすぐコーンだと…。」【先生】

○子供たちの成長

- 自分たちで作戦を練り、それが成功する気もちよさが育つのはすばらしい!他の領域、教科にも生きそう!!【先生】

○学習カード

- 振り返りがしやすく次回への期待や見通しをもてたと思う。【先生】

課題

○授業のねらい・目的

- 児童の振り返り「今日は負けたけど、今度勝てばいい」勝ち負けが目的の授業?何のためのどういうコースかということが、クラスの中でねらいを踏まえて共有されていない。【先生】

○次時につながる学習

- 児童の振り返り「試走したかった。」(黒5)もっと走らせたかった。そのためにも相談のさせ方、コースの作り替えのやり方を考えたい。【先生】
- 自分たちのコースにはばかり目がいてあまり他のグループの良いところは見つけていなかった。【先生】

体育は、座学ではないので、日ごろの学級経営が授業に出てくるものだなと思いました。先生の雰囲気によって、主体的で、ふわふわ言葉と応援の声があふれる授業になったかなと……。学習指導要領の走の運動遊びと授業のねらいと児童に身に付けさせたいことを結び付けるには、どんな授業展開をしていくといいのか悩みますね。研推での指導案検討でも悩みましたね……。 (文責:)

麒麟の発行が遅くなり、申し訳ありませんでした。

先生、低学年の先生方、提案授業ありがとうございます。いろいろな取り組みを考えたり、リレーを行うかどうか悩んだり、たくさんのご苦労があったと思います。研究を始めたばかりなので、成果と反省を次につなげることができる授業だったと思います。

①障害物を楽しむためのコース作りとは。

②障害物の適切な数とは。

③他のチームが作ったコースに興味をもつためには。

④友達との活発な教え合いを行うためには。

などなど、自分が2年生をもった際には思い出して考え、工夫していきたいと思いました。

(文責:)